

## 平成30年度 第3回八幡地域協議会 会議要録

日 時：平成31年3月7日(木) 19時28分～21時08分

場 所：郡上市文化センター4階 第1大会議室

出席者：（八幡地域協議会委員）

尾田孝夫（会長）、加藤徳光（副会長）、本田教治（副会長）、鷺見典恭、  
先山祥一、水野良一、山下優子、河合 研、鷺見耕平、益田孝之、山田篤司、  
石田 克、池戸郁夫、羽田野哲夫、日置次郎

（オブザーバー）

渡辺友三、武藤忠樹、上田謙市、山田忠平、田代はつ江

（事務局）

臼田義孝総務部次長兼八幡振興統括、大野弘勝政策推進課長、武藤地方創生推進係長

欠席者：（八幡地域協議会委員）

石山加代子、兼山勝治、和田 肇、細川竜弥、武藤里恵

（開始 19時28分）

進行：事務局

### 1. あいさつ

事務局

皆さまには各地域での活動、運営にご尽力いただき、また、今年度は災害時の避難所での協力などをいただき、感謝を申し上げます。本日の会議は平成30年度最終の会議となり、今年度の活動報告等をさせていただく。各活動報告を次年度事業に向け、参考にもしていただければと良いかと思う。

会 長

委員のみなさんにはいろいろとご尽力いただき、感謝申し上げます。本年度は異常気象により災害等も多かったが、雪はかつて無いほど降らなく、いよいよ春めいてきた。本日は、各地域の共通テーマである「人口減少をいかに抑える、地域活性化のためにどんな取り組みをしたら良いか」という課題を踏まえ展開された事業等の報告がされると思う。報告を聞き、質問等もしていただきながら、会議が次年度に向け、より良いものに繋がる機会になれば幸いである。限られた時間であり能率よく会議を進めたいので、ご協力をよろしく願います。

進行：会 長

## 2. 報告事項

### 1) 平成 30 年度事業実績（中間報告）について

- ・八幡地域地域協議会
- ・八幡市街地まちづくり会議
- ・川合東部地域づくり協議会
- ・相生地域協議会
- ・西和良まちづくり協議会
- ・小那比夢ビジョン実行委員会

会 長：交付金事業が中心となると思うが、各団体等より中間の実績報告をいただく。  
また、報告について質問等があれば、よろしく願います。

事 務 局：八幡地域協議会全体について、交付金を活用した事業の全体概要を報告する。  
年度当初の交付金は 220 万 5,001 円であり、計画では、地域協議会として先進地視察他に 34 万円ほど、八幡市街地まちづくり会議に 67 万 5,000 円、川合東部地域づくり協議会に 20 万円、相生地域づくり協議会に 50 万円、西和良まちづくり協議会に 30 万円、小那比夢ビジョン実行委員会に 19 万円を割り振っている。中間の実績では、地域協議会として視察研修に 11 万 466 円、各地域づくり団体への振込手数料として 3,412 円、八幡市街地まちづくり会議が 67 万 5,000 円、川合東部地域づくり協議会が 20 万円、相生地域づくり協議会が 50 万円、西和良まちづくり協議会は小学校の閉校事業に活用するという事で変更交付申請を経て 52 万円、小那比夢ビジョン実行委員会が 17 万 1,102 円、次年度への繰越しが 2 万 5,022 円を予定し、利息の 1 円を含め、交付金事業費は 220 万 5,002 円となる。

視察研修については、11 月 20 日に 13 名で長野県下條村に、住民自治活動の仕組みについて、建設資材支給事業についてというテーマにより視察している。建設資材支給事業については、前村長が役場職員への意識改革を促したことがきっかけで始まったものである。行政コストの縮減につなげたい思いもあったが、村が資材を提供するので小規模なものは住民自らが額に汗してやってくださいというお願いであり、住民や土木業者の反発もあったが、なんとか始まったということである。成果として、平成 29 年度末までに累計 1,726 カ所で行い、通常の請負工事で行う事業費の 4 分の 1 程度、概算で 9 億円の減と見積もっているとのことである。効果として、地域の問題を住民自らが取り組んだことで「自助・互助・共助・公助」の考えが生まれ、村民総参加の村づくりの基本ができた、各地区内での親睦と交流の輪が広まっている、自らで作った施設ということで、共有の愛着の精神が生まれる、施工後の管理も地元で自主的に行ってくれる等が挙げられている。かつては出生率が全国のトップを続けており「奇跡の村」と言われていたが、全国に例外なく進む人口減少への対応として、今後は集合住宅のお試し住宅としての活用、地域おこし協力隊員に婚活の場づくりを担ってもらうこと、若者定住促進住宅から持ち家へと施策シフトし、新增

改築補助金制度の充実などを進めているとのことであった。主な質疑応答について、また、参加者の所感などは資料のとおりである。経費としてはバス使用料に10万1,166円、視察手数料が1人あたり500円掛かるという事で6,500円、手土産に2,800円、合計で11万466円となっている。

副会長①：市街地まちづくり会議では、全体活動を4年計画で進めており、昨年度に全戸を対象としたアンケート調査を行い、その結果から「まちのコンパス」を作成した。今年度はまちのコンパスを分析したうえで、各人にヒアリングをしながらまちづくりの方向性を提案するものを「まちのコンパス vol. 2」として作成し、みなさんに意見を伺うことを計画している。アンケート結果の分析はみなさんに配付した資料のとおりであるが、これからの街を継承するには、住む人・子どもの確保、若い人・仕事の確保等が必須である。街がどうなってきたかの問いについては、良くなってきた、悪くなってきた、変わらない、ともに30%程度であり、まあまあといったところである。これからどうするか、という問いについては、力を入れるべきとして、空き家・人口減対策、環境・景観整備、伝統文化の継承、計画・体制づくり等々を挙げられている。これから引っ張っていく団体はどうあるべきかという問いについては、既存団体、既存団体合同体、新セクターの設立といったところが多い意見であった。新しい組織については、連携や協力の強化、専属職員の設置が必要等とある。その他多くの自由記述をいただいております、移住者により街に活気が出てきているが、一方で今までの郡上八幡の良さが無くなってきている部分もある、観光の街になってしまい、住みやすい街ではなくなっている等の意見もある。それらから、祖父母が郡上八幡出身であるなど、郡上八幡に何らかの縁のある人材とネットワークを作り、街と関わってもらい、移住してもらおうという仕組みづくり、その他情報プラットフォーム構築の検討などをまとめたものを小冊子にまとめ、各戸へ配付する計画である。

委員①：川合東部地域協議会においては、川合東部活力創出事業として、夏祭りを協賛金と公民館費により行い、11月にはもち花付け体験学習をボランティアにより小学生を対象に行なった。同じく11月に誇れる環境づくり事業として、地区のボランティアによる不法投棄撤去作業を行っている。12月には、小駄良師走市に合わせ、何を行なっているかのPRを兼ねた小駄良街道の看板等作成を行なった。その他地域防災マニュアル本を作成し地域の皆さんに配布したが、地域の防災に対する意識が高まったことを感じている。また、川合東部では3年間、山村活性化事業を地域づくりの事業とともに行なってきた。補助事業としては3月をもって終了するが、非常にありがたかった。

副会長②：相生地域づくり協議会では、荷車楽市楽座、わらべ唄、あいおいシネマデラックスの開催を中心に取り組んだ。荷車楽市楽座については、猛暑の影響で農作物が少なく出店者も少ないなどの理由から上手くいかなかった。次年度はやり方も模索しながら再チャレンジしたい。シネマデラックスは台風により中止となった。わらべ唄事業とは、八幡に移住されている井上氏とともに相生地区のわらべ唄を残していこうという取り組みであり、現時点では取材をしてもら

っている状況である。また、今週末の日曜日には第2回アイオイパーティを計画しているが、昨年に引き続き行いたかったドラム缶風呂については保健所の指導が厳しく、開催を認められていない。その他にも指導が入っているが、明日にでも交渉結果が出る予定である。これまではスタッフ中心でイベント等を行ってきたが、次年度は地域の方々がお客さんとして参加するのではなく、地域づくりの一環としてイベントが盛り上げられるようにしたいと思っている。

委員②：西和良まちづくり協議会では、西和良小学校閉校後の活用提案、また、閉校に係る記念イベントについて取り組んだ。今年度1年を通し、各行事を閉校記念イベントと位置付け、地域の方とともに閉校を惜しんでいただいた。小学校閉校後の利活用についてのアンケート調査では、資源回収はどうなるのかとの意見があったことから、4月から子供会を設立させ、子供会の行事として資源回収等を行うようにした。また、地元の資源を活用した取り組みを進めたいとの事で、地域おこし協力隊員や郡上カンパニーの制度を活用したまちづくりが進められないかと模索している。閉校記念イベントには、東日本大震災で失われた学校の校歌を編曲しているという方を招くことができるようになったことから、交付金を増額していただき事業を盛り上げた。閉校後の活用については地元の事業体で行いたいと考えているので、ご支援もお願いする。

委員③：今年度、小那比地域では災害による甚大な被害を受けたが、みなさまの各種ご支援をいただき、業者も鮎の放流時期までの工事完成に向け取り組まれ、今月末には80%程度の復旧となる見込みなので報告する。小那比夢ビジョン実行委員会では各種事業も定着し、参加者も多くなっている。農地環境保全事業とも併用して事業推進をしてきたが、新年度は新規にドローンを活用した学校の開設企画に場所提供での参画を予定している。春のお茶摘み時期と合わせるよう計画中であり、今年度は準備のための取り組みも行っている。

会長：交付金を受けている団体の事業報告を受けたが、ここまでで質問等はないか。

委員①：小那比の取り組みについて、ドローンの使用ライセンスは取れるのか。

委員③：農業に対するドローンの資格については県の支援もある。IT、AI、ICT等への取り組みについては国や市も積極的に投資を行うようなので、活用したい。パンフレットもあるので提供する。

委員①：川合東部でも営農組織があり、農薬散布などのドローンオペレーターを養成したいので、安く資格が取得できるのであればありがたい。

委員③：自分も始めたばかりで詳しいことは分からない。小那比では、遊び用ではあるが、1万円程度の練習用ドローンを10機購入した。今後が楽しみである。

委員①：農薬散布用ドローンは1機あたり300万円くらいかかるので課題がある。

会長：その他、交付金を活用しなくても事業実施されているところはないか。また、提案などあればお願いする。小野地区はどうか。

委員④：特段ない。

会長：那比地域はどうか。

委員⑤：那比地域も以前は活動があったが、最近では地域づくり協議会ではなく公民館において活動しているのが現状である。

## 2) 平成 31 年度事業予定について

- ・各地域団体の事業内容
- ・申請提出時期

会 長：交付金を活用した事業報告とともに次年度の計画も若干説明がされた。その他報告になかったもので、これだけはやりたいと計画しているものはないか。

委 員①：川合東部では、一部の地域で地域誌の作成に取り組んでいるところがある。事務局にも相談したが、地域でも何らかの支援をしたいと思っている。屋号や地区の祭りなどをまとめたいと機運が上がっているわけであるが、他の地域でそのような取り組みをしているところはあるか。

会 長：那比や相生地域の一部では、まとめた形態も違うが、行なった実績もあるようなので、参考にもしていただければと思う。

新年度の交付金事業について、事務局より申請時期など補足いただきたい。

事 務 局：各団体からは既にやりたいことを計画しているとの報告もあったが、新年度は地域協議会委員の改選もないので、できる限り早く各団体が事業に取り組めるよう交付金での支援をしたいと思う。交付金申請書の提出時期について、交付金の活用を希望される団体は4月10日を目処に提出いただきたいので、再度各団体でご協議いただきたい。

会 長：各団体からの申請額がそのまま交付されることの担保はできないが、今年度申請を出されていない団体についても次へつなげていきたいとのことで、活用を検討いただくよう協議いただきたいと思う。

## 3. 協議事項

### 1) 平成 31 年度八幡地域協議会事業について

事 務 局：各団体での取り組みも計画されるわけであるが、八幡地域協議会本体での活動をどのように計画するのか先般の正副会長会でご協議し、そのなかで出た話を報告させていただく。1つは、例年どおりとなるが、参考になる部分があるということで、先進地視察を計画したらどうかという意見があった。その他、今年度はできなかったが、平成 29 年度も良い実績が出ており、また、もう一度開催してほしいとの声も聞かれるということで、新年度は婚活イベントを計画できないだろうかという意見があった。

会 長：本体事業として、内容の具体化はまだであるが、先進地視察事業とこれまで3回ほど行なった婚活イベント事業を取り組んだらどうかということで考えている。本体行事については、地域協議会委員にもご協力をいただかないといけないとは思いますが、ご意見等どうか。ただし、事務局に全面的に頼るわけではないので、予算や経費的なことから開催は難しいという部分もある。また、本体事業よりも各団体で地域の活性化に取り組もうという意見が多いと、本体の事業よりそちらに交付金を充てたいという部分もある。

委員⑥：八幡地域の活性化のために、できる限り若い人の将来をフォローしたいので、婚活イベント事業は行いたい。

委員⑦：これまで婚活事業では、市外の人との交流やカップルが成立するなどある程度の成果はあったが、組織的な課題からか事業終了後のフォローができていない。そういう部分が大事である。また、若い人の考え方も変わってきているので、大きいイベントでは細かなところに目が届きにくいので難しい部分がある。現在、マリアージュでは小さい取り組みの方が交流しやすいということで、イベントの小規模化にシフトしている。

委員⑥：やり方はいろいろあるので、できれば前向きにやってほしい。

会長：その他の委員からはご意見ないか。

委員⑧：自分たちも楽しんでやっているので、開催を前向きに考えたい。

委員⑨：ここまで各団体の事業報告を聞くなかでの感想でもあるが、交付金事業としては各団体から予算要求が上がり、取りまとめ後に本体に余力があった場合に婚活イベントの開催を考えた方が良くと思う。各地域団体の取り組みを尊重しているところが、市内の他の地域協議会とは違う八幡地域協議会らしさだと思う。また、開催するのであれば、大きく開催するのではなく、こじんまりとやった方がいろいろと目を配れるので良く思う。

委員⑦：消防署が消防団員を対象に婚活イベントの取り組みをしている。参加者の集まりも良くカップルも3, 4組ほど成立するが、その後どのようにフォローするのが課題である。マリアージュでフォローする体制を取っているが、何をやるにしてもフォローが大事である。

会長：やりたいといった意見が出たが、各地域の団体が八幡地域協議会の主役なので、そちらを優先し、イベントは小さくやった方が良いとの意見もあった。事業開催に向けるが、無理して開催するのではなく、やり方は考えるということに進めたい。マリアージュの支援を受けながらやりたいとは思いますが、ある程度事前に打ち合わせ等のできる体制をとりたいが、ご協力いただける委員はいるか。協力いただけるとありがたい。

(→5名の委員を選任)

この他、本日欠席の委員にも声を掛けながら、進めたい。

協議会：(承認)

委員⑦：開催するのであれば、マリアージュも支援させていただく。

会長：それでは、予算とも見合わせながら開催を検討したいと思う。

#### 4. その他

##### 1) 八幡地域での事業進捗、お知らせについて

事務局：八幡地域に関わることについて紹介させていただく。旧越前屋の改修について、付近の方々にはご迷惑もお掛けしているが、現在までに内部の解体など進めている。しかし、着工後に隣家との調整や土蔵の改修方法等について諸問題が出てきた。郡上おどり発祥祭までの完成を目標に進めてきたが、工期が延び

そんなことを報告させていただく。殿町の旧八幡公民館、積翠荘跡地について、重伝建地区のPR等が図れる交流施設として、（仮称）郡上八幡まちなみ交流館の建設が始まっている。今後も状況報告などしたいと思うが、市では八幡のまちなかでこういった施設を整備し、町づくりを進めている。また、郡上学の集いを3月23日に開催する。これからの郡上高校と郡上市というテーマで、郡上高校の生徒を中心に郡上学の発表会を計画している。現在、郡上校生にチラシも作成いただいている最中で正式なものではないが、生徒の目から見た今後の郡上への提案もいただけるかと思うので、みなさんお誘いあわせの上、ぜひお越しいただきたいと思う。

委員①：積翠荘跡地の活用について、建物と歩道とに段差のない計画か。以前の施設は階段があって不便であった。

オブザーバー①：段差のない計画である。

会長：その他、ご意見等はないか。

委員⑩：南部コミュニティセンターの駐車場についてであるが、先日、老人クラブの集まりに市民病院の駐車場に駐車しコミュニティセンターへ行ったら、病院駐車場の警備員に酷く叱られた。コミュニティセンターの駐車場は駐車台数が少ないので、隣接地等への整備を検討いただきたい。

副会長①：郡上八幡中央公園整備の際に聞いた話では、市民病院駐車場の入口部については公民館利用者が駐車しても良いという話であった。

事務局：確認させていただく。

## 5. オブザーバー講評

オブザーバー①：事業報告を聞かせていただくと、大きな成果を上げられているところもある。特に西和良小学校の閉校後は、有意義に地域で使っていただければ良いと思う。また、小那比地域の活動について、過去に羽田野委員と一緒に先進地へ視察した記憶があるが、その成果が実っていると感じた。各地域での取り組みが今後も活性化することを願いつつ、議員としても支援できることはしたいと思っている。

オブザーバー②：先般、移住に特化した本を読んだ。Uターン、Iターン、Jターンは聞いていると思うが、最近は孫ターン、嫁ターン、エックスターンというものがある。エックスターンはペケターンとも言うようであるが、いずれの移住の形であっても、移住者には移住先の条件として農地を求めるとのことである。そんなことも含め、移住の先進地になれば良いかと思っている。興味のある方は参考にさせていただきたい。

オブザーバー③：本日の会議でも災害の話があった。議会としても、秋に行なった議員と語ろう会において7地域で市民から話を聞いた。災害に対する改善について、市長宛に提言させていただいた。市長もふれあい懇談会で災害に対するご意見をいただいております、新年度では防災、減災対策について自主防災組織等の強化を望んだ大きい予算が付けられている。正式な議決はこれからであるが、広報

や議会だより等でご確認いただきたいと思います。

オブザーバー④：合併後 15 周年であり、また、八幡大火から 100 年、和良大火から 70 年、伊勢湾台風から 60 年、奥美濃地震から 50 年等さまざまな節目となり、災害に対する事業が組まれている。新年度は特定財源の期限が切れ、いよいよ自主財源で行なっていくこととなる。本当の意味で行財政改革が必要となり、また、公共施設の見直しも必要となる。必要なことはやっけて行かないといけないが、行政も市民も覚悟をして向かっていきたいのでご理解とご協力をお願いし、みなさんとともに取り組んでいきたいと思う。

オブザーバー⑤：視察研修に関して、自分も 10 年ほど前に下條村へ出生率の高さ、建設資材支給事業等の研修に行き、下條村の取り組みに感動したことを思い出した。先日の予算特別委員会でも、高鷲地域において、集会場の屋根をペンキ塗りしたいとのことで資材を支給するよう要望があったが、屋根に登ることは危険との理由で業者委託とされたという事例があった。時代は変わってきていることを感じた。視察報告を見ても、下條村では当時のまま継続されていること、改善されながら行われていること、それぞれあるようであったが、視察を経て、良いと思うことはどんどん取り入れて欲しいと思う。

## 6. 閉 会

(閉会 21:08)